

日本鉄鋼協会昭和 51 年度臨時総会開催通知

会 員 各 位

日本鉄鋼協会会長 小 林 佐 三 郎

本会昭和 51 年度臨時総会を下記の通り開催いたしますのでご出席下さるようご案内申し上げます。

なお、総会にご出席にならない会員各位は、下記委任状に記名捺印の上お送り下さるか、またはご意見を9月25日までに本会までお申し出下さい。これらの手続をとられない場合は総会の決議事項にご異議ないものとして取扱いをさせていただきますのでご了承下さい。

記

日 時 昭和 51 年 10 月 2 日 (土) 9:20～
 会 場 東北工業大学 5 号館 53 番教室 (仙台市長町越路)
 議 案 定款中一部変更の件

定 款 中 一 部 変 更 案

定款中一部を次の通り変更する

1. 第 11 条 (正会員に関する規定) 中入会金 600 円とあるを 700 円に、会費年額 5,400 円とあるを 7,000 円に変更する。
2. 第 12 条 (学生会員に関する規定) 中入会金 300 円とあるを入会金に関する規定は省き、会費年額 2,700 円とあるを 2,000 円に変更する。
3. 付則として、「この定款の変更は文部大臣の認可のあつた日から施行し、昭和 52 年 1 月 1 日から適用する」を加える。

(参考現行定款)

第 11 条 正会員は、理事会の承認を経て入会するものまたは団体であつて、入会金 600 円および会費年額 5,400 円を納めるものとする。

第 12 条 学生会員は、理事会の承認を経て入会する学生であつて、入会金 300 円および会費年額 2,700 円を納めるものとする。

定 款 中 一 部 変 更 提 案 理 由

本会の正会員、学生会員および外国会員の入会金および会費年額は昭和 50 年 1 月から値上げされましたが、当時の狂乱的物価上昇に比べ、値上げを小幅に抑えたため当時から 2 年後には会費の見直しをすることが予定されてきました。

昭和 51 年度予算では個人会員からの会費収入は 4,600 万円で和文会誌「鉄と鋼」発行のための直接経費 (印刷費、発送費など、人件費は含まない) 8,300 万円の 55% に過ぎず、明年度以降も会誌発行経費の増加が予想されますので財政の健全化を図るため会費の変更が必要であります。個人会員の急激な負担の増加は避けたい。

そこで個人会費収入の中心をなす正会員の会費年額を 7,000 円に 29.6% 値上げし、入会金も 700 円に変更しようとするものであります。

なお学生会員につきましては積極的に増加を図り若手会員増加の一助とするため、入会金を免除し、会費年額を 2,700 円から 2,000 円に減額しようとするものであります。

委 任 状

私は _____ を代理人と定め

つぎの事項を委任いたします

昭和 51 年 10 月 2 日開催の社団法人日本鉄鋼協会
 臨時総会に出席し議決権行使に係る一切の件

昭和 51 年 _____ 月 _____ 日

名誉会員・賛助会員
 維持会員・正会員

(氏名)

Ⓜ

第 40・41 回西山記念技術講座開催のお知らせ

鋼の連続铸造技術における最近の進歩

主催 日本鉄鋼協会

第 40・41 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいませようご案内いたします。

I 期 日 第 40 回 昭和 51 年 9 月 16 日(木), 17 日(金)

新丸ビル大会議室 (千代田区丸の内 1-5-1 新丸ビル地下 TEL 03-214-8045)

第 41 回 昭和 51 年 10 月 14 日(木), 15 日(金)

北九州市勤労者会館ホール (4 階)

(北九州市八幡区中央 2-1-1 TEL 093-661-7334)

II 演題ならびに講師

第一日 (9 月 16 日(木)・10 月 14 日(木))

9:30~10:30 総 論

共同研究会製鋼部会長 石 原 重 利

10:40~12:10 鋼の連続铸造設備

(株)神戸製鋼所本社 野 崎 輝 彦

13:10~14:40 連続铸造の操業

新日本製鉄(株)大分製鉄所 堀 珊 吉

14:50~16:20 連続铸造片の凝固組織

鉄鋼基礎共同研究会凝固部会長 郡 司 好 喜

第二日 (9 月 17 日(金)・10 月 15 日(金))

9:30~11:00 連続铸造片の表面欠陥とその防止法

川崎製鉄(株)水島製鉄所 大 井 浩

11:10~12:40 連続铸造片の内部欠陥とその防止法

日本鋼管(株)技術研究所 川 和 高 穂

13:40~15:10 高合金鋼の連続铸造

日新製鋼(株)周南製鋼所 星 記 男

15:20~16:50 連続铸造铸片の加工法と鋼材の性質

住友金属工業(株)本社 牛 島 清 人

III 講演内容

1. 総 論 共同研究会製鋼部会長 石 原 重 利

鋼の連続铸造法の今日に至る発展の経過を概観し、造塊・分塊法との対比に於いてその特長を述べる。

次に、設備面、操業面、品質面等の観点から、連続铸造技術の近年に於ける進歩の跡をたどりつつその現況を考察し、連続铸造法の現在抱えている問題点と課題について言及する。さらに、最近の新しい技術の紹介と将来展望についても触れる。

2. 鋼の連続铸造設備 (株)神戸製鋼所 野 崎 輝 彦

1960 年代に入つて従来の造塊～分塊工程に代わるべき大型の連続铸造設備が実用化され、全連続を基本とした大型製鋼工場も出現した。このことは連続の生産能率を高めるため、その操業経験を機械設計の中に生かして種々努力した結果であり、更に品質面および次工程からの諸要求を設備面の改善で答えてきたことも大きな理由である。そこで連続設備の歴史的な流れから発達経過を展望し、生産能率向上、品質向上面で設備改善がどの様に進められてきたかを述べ、併せて将来に対する課題についても記述する。

3. 連続铸造の操業 新日本製鉄(株) 堀 珊 吉

○製造サイズ、鋼種の拡大、スラブ連続の現状、ピレット、ブルーム連続の現状、トピックス

○生産性の向上、多連続技術、高速铸造技術、操業率向上 ○省資源、省エネルギー ○自動化、省力化、自動铸造、パウダー、自動投入、铸片処理 ○整備、計測技術、○連続用耐火物 ○前後工程との連繋

4. 連続鑄造片の凝固組織 鉄鋼基礎共同研究会凝固部会長 郡 司 好 喜

連続鑄造された鑄片の凝固組織は鑄片内部の偏析、介在物の分布および内部割れなどの欠陥に密接に関連する。まずマクロ組織を分類してその成因に関する基本的な考えを示し、とくに等軸晶を増加させるためにとられている操業の意味をあきらかにする。ミクロ組織については、デンドライ・アームスパーシングとこれに影響する凝固過程のパラメーターの関係を中心とし、理論的な考察および実際への応用を解説する。

5. 連続鑄造片の表面欠陥とその防止法 川崎製鉄(株)大 井 浩

連続鑄造による鑄片の表面欠陥についての研究の進歩はめざましいものがあり、その結果として鑄片の表面性状は造塊材を凌駕するにいたり鋼種によつては無手入れ圧延が工程化している。鑄片の最も基本的な欠陥であるひび割れ横割れ、縦割れおよび表皮下の非金属介在物などをとりあげ、その生因および対策についてのここ 2, 3 年間の進歩について考察した。

6. 連続鑄造片の内部欠陥とその防止法 日本鋼管(株) 川 和 高 穂

主に広幅連鑄スラブについて、中心偏析、断面割れ、内部割れ、表層下割れ及び介在物を取上げ、それぞれについて形態、上記欠陥と成品欠陥との関係、発生原因及び対策について述べる。中心偏析についてはその防止法として Inline reduction を提案し、実施した結果を述べる。介在物については成品別に成品欠陥との関係を述べ、注入流酸状防止法、ノズル形状等の影響を述べる。

7. 高合金鋼の連続鑄造 日新製鋼(株) 星 記 男

日本における高合金鋼、とくにステンレス鋼の連鑄化率は 60% を越える。本報は国内各社のアンケート結果に基づき現況、連続鑄造に関連した鋼の特性、設備、操業、鑄片と製品にあらわれる欠陥と対策について述べる。さらに鑄片の組織、加工による変化と加工性、歩留と原価に与える影響について鋼塊材と比較して述べる。

8. 連鑄造鑄片の加工法と鋼材の性質 住友金属工業(株) 牛 島 清 人

連続鑄造が近代的な製鋼技術の一環として十分にその機能を発揮するために、高能率の精錬と圧延の中間を結ぶプロセスとして、単純化、大容量化を指向すると同時に可及的に最終製品に近い形の素材を鑄込むといういわゆる異形断面鑄片の連続鑄造、In-line Reduction 等についても開発が進められてきた。又多年に亘る品質向上の努力は逐次適用鋼種得拡大として実つてきている。それでこれら鑄片の加工法と得られた鋼材の性質を紹介する。

IV 聴講料無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 3,000 円

VI 問合せ先 日本鉄鋼協会編集課 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-6021

第 42 回西山記念技術講座開催のお知らせ

鉄鋼製錬の基礎研究における最近の発展

主催 日本鉄鋼協会

第 42 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようお願いいたします。

I 期 日 昭和 51 年 11 月 16 日(火), 17 日(水)

新丸ビル大会議室 (千代田区丸の内 1-5-1 新丸ビル地下 TEL 03-214-8045)

II 演題ならびに講師

第一日 (11 月 16 日(火))

9:30~11:00 溶鉄、溶滓の液体構造の解明の発展と鉄鋼製錬への関係

日本原子力研究所東海研究所 古川 和 男

11:10~12:40 溶鉄、溶滓中の拡散と鉄鋼製錬反応の速度論 九州大学工学部 小野 陽 一

13:40~15:10 溶鉄、溶滓の構造モデルと熱力学的性質の最近の研究の発展
東北大学工学部 萬谷 志 郎

15:20~16:50 溶鋼の取鍋処理法について 新日本製鉄(株)生産技術研究所 梶岡 博 幸

第二日 (11 月 17 日(水))

10:00~11:30 高温質量分析法による溶鉄、溶滓の熱力学的研究の進展

早稲田大学理工学部 加藤 栄 一

12:30~14:00 透過 X 線カメラによるスラグ中の溶鉄粒の運動挙動の観察と解析
北海道大学工学部 石井 邦 宣

14:10~15:40 鉄鋼製錬反応のモデル解析について
新日本製鉄(株)生産技術研究所 島田 道 彦

III 講演内容

1. 溶鉄、溶滓の液体構造の解明の発展と鉄鋼製錬への関係 日本原子力研究所 古川和男

溶鋼および溶融スラグ構造に対する最も直接的情報がえられるはずの、X線および中性子線解析に関する最近の成果および問題点を紹介する。次に溶融スラグの静的・動的構造の包括的な研究手段を提供するものとして、溶融フッ化ベリリウム酸塩の利用を提案する。これは溶融珪酸塩との間にすぐれた相応状態原理が成立する物質系であつて、400~800°CにおいてNi合金容器により珪酸塩スラグの研究を定量的に代替できる可能性をもっている。

2. 溶鉄、溶滓中の拡散と鉄鋼製錬反応の速度論 九州大学 小野陽一

最近、冶金反応にも化学反応律速のケースが幾つか見いだされ、高温反応必ずしも拡散律速にあらずということが明らかになつてきた。しかし、それによつて拡散の研究の重要性が減つたわけではなく、むしろ従来以上に精緻な知識が要求されるようになった。このような認識の上に立つて、まず拡散の現象論的基礎を明確にし、さらに溶鉄・溶滓中の拡散に関する実験的ならびに理論的研究の現況とその将来への展望について述べてみたい。

3. 溶鉄、溶滓の構造モデルと熱力学性の最近の研究の発展 東北大学 萬谷志郎

鉄鋼製錬におけるような多元系溶液を取り扱う方法として、金属溶液についてはWagnerの近似的取り扱い、スラグについては二、三のイオン説が提案されているが、最近では溶液モデルに基づいてこれらを定量的に取り扱う方法が提案されている。本講座では、これらの中で、金属溶液については置換型溶体モデルに基礎をおく2乗形式、侵入型モデルに基礎をおく侵入型溶体モデルについて、また溶融スラグについてはイオン平衡に基礎をおくMassonのモデルおよびこれとは全く異なるLumsdenのモデルにつき、その内容と将来の発展性について概略を述べる。

4. 溶鋼の取鍋処理法について(製鋼反応の実操業の問題) 新日本製鉄(株) 梶岡博幸

「転炉一取鍋処理」という工程が最適な製鋼プロセスと考えられており、取鍋処理による精錬技術の発展は著しいものがある。生産現場で採用されている各種取鍋処理法の精錬限界や経済性について述べる。スラグ・メタル反応として脱酸および脱磷を、ガス・メタル反応として脱水素をとりあげ、これらの反応を効果的にすすめるための問題点や諸方策について説明する。

5. 高温質量分析法による溶鉄、溶滓の熱力学的研究の進展 早稲田大学 加藤栄一

質量分析法の高温化学への応用は最近大きな進展をしており、溶融鉄合金の熱力学的性質の研究への応用も最近十年間に大きな成果が挙げられた。溶滓についての研究は未だ緒についたばかりであるが、質量分析法に寄せる期待は大きい。しかしこの分野は実験技術上解決を要する多くの問題を有している。このような問題の解決の見通しを含めてこの種の研究の将来にも言及したい。

6. 透過X線カメラによるスラグ中溶鉄粒の運動挙動の観察と解析 北海道大学 石井邦宜

溶融スラグ中を金属滴が運動しつつ反応する現象は高炉、転炉など多くの冶金反応装置内でみられ、装置解析上無視しえない重要な一過程と考えられる。しかし反応速度を大きく左右する滴の運動は、冶金学的条件では殆んど知られておらず、常温系の知見からの類推に留まつている。X線透過法を用いて高温のスラグ-メタル系について測定した最近の結果から、常温の液々系との相違、常温の既存データ利用上の問題点などについてのべる。

7. 鉄鋼製錬反応のモデル解析について 新日本製鉄(株) 島田道彦

溶鉄・溶鋼の各種プロセスに関する実験は、高温度のために実験手法を制約される。プロセスの理論的解析とともに、小規模のホットモデル実験や、流動混合状況を可視的に調べられるコールドモデルの実験は、プロセスの開発に不可欠のものとなつている。高炉のガス流れ、溶鉄予備脱硫、溶鋼脱ガス等の諸研究の成果をもとに、相似性を中心とする実験上の問題点を述べてみたい。

IV 聴講料無料(事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 3,000円

VI 問合せ先 日本鉄鋼協会編集課 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-6021

鉄鋼基礎共同研究会・固体質量分析部会報告会開催のお知らせ

固体質量分析法の鉄鋼への応用

日本学術振興会・日本金属学会・日本鉄鋼協会で運営されております鉄鋼基礎共同研究会固体質量分析部会がこのたび標記テーマの研究を完了しましたが、来る10月2日～3日第92回(秋季)講演大会が開催される機会に、その研究成果の報告会を開催いたすことになりましたので、多数参加されるようご案内申し上げます。

日時：昭和51年10月3日 9:30～12:00

場所：金属学会L会場(東北工業大学本館4階12教室) 仙台市長町字越路19

プログラム

9:30	部会長挨拶	金材技研	須藤恵美子
9:35	固体質量分析部会活動の経過	新日鉄基礎研	山口 直治
9:50	スパークイオン源質量分析法による精度、正確さ、相対感度	大同中研	柳原 和夫
10:30	スパークイオン源質量分析法による微量成分の分析	神鋼浅田基礎研	源内 規夫
10:55	イオンマイクロアナライザーの鉄鋼研究への応用	川鉄技研	角山 浩三
11:35	固体質量分析法の今後の課題	東北大金研	広川吉之助

テキスト 過去5年間における部会活動の最終報告書

「固体質量分析法の最近の進歩」 約200頁 定価 2,000(送料本会負担)

参加費無料(事前の申込みは必要ありません)

問合先テキスト申込先 東京都千代田区大手町経団連会館3階

日本鉄鋼協会技術部 山本(電話 03-279-6021(代))

固体質量分析部会報告書内容

「固体質量分析法の最近の進歩」

前記報告会に使用されるテキストの内容はつぎの通りとなっております。

- I 緒言 (金材技研 須藤恵美子)
- II 研究経過 (新日鉄基礎研 山口 直治)
- III 研究報告
 1. 乾板検出法を用いたスパークイオン源質量分析法による精度、正確さ、相対感度について
(京大理 榎田 勉・東大工 織田昌平・神鋼浅田基礎研 源内規夫・大合中研 柳原和夫)
 2. 乾板検出法を用いたスパークイオン源質量分析による微量成分の分析
(神鋼浅田基礎研 源内規夫・松下電器中研 中村信雄・三菱金属鋁業中研 佐山恭正)
 3. スパークイオン源質量分析法における電子計算機の利用
(新日鉄基礎研 山口直治・日本電子 久保田英二)
 4. 固体質量分析法による金属中のガス成分分析法 (東京理大理 古谷圭一)
 5. スパークイオン源質量分析法による溶液・粉末試料の分析 (金材技研 斎藤守正・須藤恵美子)
 6. 写真乾板上の質量スペクトルの測定精度(自動解析法) (松下電器中研 中村信雄・少西文弥)
 7. 電気検出法を用いたスパークイオン源質量分析の精度・正確さについて
(東大工 織田昌平・大同中研 柳原和夫・日本電子 青山鉄美)
 8. イオンマイクロプローブマスアナライザーの原理と応用 (川鉄技研 角山浩三)
 9. イオンマイクロアナライザーによる深さ方向の分析 (日立中研 津山 斎・田村一二三・土井 紘)
 10. イオンマイクロアナライザーによる定量分析 (川鉄技研 角山浩三)
- IV まとめ (東北大金研 広川吉之助)

参考資料

1. 部会におけるアンケート結果
2. スパークイオン源質量分析装置
3. イオンマイクロアナライザー

**鉄鋼協会東海支部
講習会開催案内**

共催：精機学会東海支部 共賛：日本機械学会東海支部
日刊工業新聞社

本会東海支部では、日本金属学会東海支部と共同主催
で下記の通り講習会を開催いたしますので、多数ご参加
下さるようご案内申し上げます。

鉄鋼材料の被削性

第1日 10月20日(水) 10:00~16:00

- (1) 10:00~11:40 切削加工技術の現状と問題点
機械技術研究所生産工学部長 竹山 秀彦
- (2) 12:40~14:20 切削機構
一材料特性と切削抵抗一
名古屋大学工学部助教授 山口 勝美
- (3) 14:20~16:00 最近の切削工具材料の進歩
三菱金属東京工場製造部長 中村 裕道

第2日 10月21日(木) 10:00~16:00

- (1) 10:00~11:40 熱処理と被削性
愛知製鋼研究部課長 山本 俊郎
- (2) 12:40~14:20 切削加工における切くず処理
トヨタ自動車工業第1生産技術部
開発課 野呂 周平
- (3) 14:20~16:00 最近の快削鋼
大同製鋼中央研究所首席研究員 伊藤 哲朗

日 時 昭和51年10月20日(水), 21日(木)
10:00~16:00

場 所 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部5
号館2階 521 番講義室

聴 講 料 会員(共催, 協賛学会員を含む) 12,000円
非会員 15,000円

学生会員 4,000円(いずれもテキスト含む)
申込方法 所定の申込書(1人1枚, 必要な方にはお送
り申し上げます)
各欄にご記入のうえ, 聴講料をそえ(現金書
留)下記宛お申込み下さい。到着次第聴講券
をお送り申し上げます。

申 込 先 464 名古屋市千種区不老町
名古屋大学工学部金属鉄鋼工学教室内
日金属学会鉄鋼協会東海支部
電話 (052) 781-5111 内線 3372

申込締切 昭和51年9月30日(木)

日本鉄鋼協会東海支部 講習会 申込書用式

ふりがな			
氏 名			
勤務先(部課名) 又は在学校名			
会員種別 (該当項目に○印 をおつけ下さい)	会 員 12,000円	非会員 15,000円	学生会員 4,000円
連絡先			

鉄鋼協会中国四国支部

学術講演会開催案内

本会ならびに金属学会中国四国支部では毎秋各地持回
りにより、学術講演会を開催しておりますが、今年度は
この講演会を山陰の安来市で下記により開催することに
いたしました。つきましては折角の機会でございますの
で、ご関係者多数ご出席下さいませようご案内申しあげ
ます。

なお、準備の都合などもございますので聴講ご希望の
方は所定の申込書により 10月5日までに当支部宛お申
込み下さい。

日 時 昭和51年10月16日(土) 9:00~11:00
場 所 安来市朝日町「安来商工会議所一大会議室」

演 題 と 講 師

「窒化・浸炭および表面処理硬化法」

関西大学工学部教授 工博 高瀬 孝夫

—講演要旨—

- 1) 軟窒化法の基礎と種類 2) イオン窒化法の基礎
と日本および欧州での応用状況 3) 真空浸炭, イオ
ン浸炭, その他 4) 浸硫法, 浸ボロン法およびTD
プロセス 5) CVD (Chemical Vapor Deposition)
およびPVD法 6) 合成樹脂浸透による表面処理法
7) 誘導加熱利用による表面ライニング法 8) その
他

以上について、昨年欧州での見学工場の状況概略をも
含めてスライドを使用して報告する。

日本鉄鋼協会北陸支部

学術講演会(研究発表)講演募集

鉄鋼協会北陸支部は、金属学会北陸信越支部と共催で、
下記により学術講演会(研究発表)を開催することにな
りましたので、多数お申込み下さいますよう御案内いた
します。

期 日: 昭和51年12月2日(木), [3日(金)見学会]
場 所: 新潟大学工学部(新潟県長岡市学校町)

応募要領: 講演題目, 氏名(2名以上のときは講演者に
○印), 勤務先, 通信先およびスライドの要,
不要などをご記入の上, 下記宛にお申込み下
さい。なお, 講演御申込者には, 折返しオフ
セット原稿用紙をお送りします。

申込締切: 10月9日(土)

原稿締切: 10月30日(土)

申 込 先: (〒933) 富山県高岡市中川園町,
富山大学工学部内,
日本鉄鋼協会北陸支部事務局
(Tel. 0766-21-2510)

なお, 当日2日には研究発表講演会のほかに, 湯川記念
講演会(講師: 東京工業大学教授 染野檀氏) および特
別講演会(講師: 新潟鉄工所顧問 斎藤弥平氏) 並びに
懇親会を催し, 翌3日には工場見学会を行います。

懇 親 会: 新潟県教職員互助会館(長岡市),
会 費 ¥ 2,000

見 学 会: 三条, 燕方面(三条機械(株), 明道金属(株))

他), 参加費 円1,500 (昼食付)

懇親会または見学会に出席希望の方は, それぞれの参加費を添えて **11月25日(木)** までに下記にお申込み下さい。

懇親会・見学会申込先: (〒940)新潟県長岡市学校町, 新潟大学工学部, 斎藤昇教授宛, (Tel. 0258-32-3600)
 宿泊: 参考までに, 公共宿舎としては下記の各会館などがあります。これらのどれかを利用される方は, それぞれに直接お申込み願います。

- 新潟県教職員互助会館 (長岡市今朝白町1丁目)
 (Tel. 0258-33-7400) 一泊二食付 円3,200,
 予約金 円500
- 新潟県中越婦人会館 (長岡市城内町3-4-6)
 (Tel. 0258-33-6730) 一泊二食付 円3,000
 予約金不要
- 長岡自治会館 (長岡市西神田町)
 (Tel. 0258-33-7290) 一泊二食付 円3,740
 予約金 円1,000

第20回材料研究連合講演会

主催 日本学術会議材料研究連絡委員会 共催 関連24
 学協会 幹事学会 土木学会, 日本化学会, 日本機械学
 会, 日本材料学会, 溶接学会

開催日 昭和51年9月21日(火), 22日(水)

会場 京都大学防災研究所 (京都府宇治市五ヶ庄)

第1会場: 4階451号室

第2会場: 5階553号室

第3会場: 5階570号室

講演部門 I (材料の微視的構造, II. 材料の力学的性質と挙動, III. 材料の物理的性質, IV. 材料の化学的性質, V. 構造物強度, VI. 材料の製造・加工と処理, VII. その他シンポジウム)

特別講演

日時・場所 9月21日(火)13:00~14:15

第1会場 451号室

あいさつおよび「材料研究連絡委員会の現状」

日本学術会議材料研究連絡委員会委員長

東北大学工学部教授 横堀武夫君

特別講演 「化学装置材料の環境強度」

京都大学工学部教授 吉沢四郎君

プログラムの詳細については幹事学会で問い合わせ下さい。

講演前刷集予約について

講演前刷集 (全講演105題集録) を予約頒布いたします。印刷部数に制限がありますので, 9月10日(金)までに代金を添えてお申込み下さい。

予約価 1冊3,000円 (締切後は1冊3,500円) 送料250円 (2冊まで) 加算のこと。

申込方法 随意用紙に「第20回材研連講演会前刷申込み」と記し, 氏名, 所属, 送本先を明記のうえ代金を添えて, つぎへお申込み下さい。

申込先 日本材料学会講演会係

〒606 京都市左京区吉田泉殿町1の101

Tel. (075) 761-5321 振替口座京都 26625 番

鉄鋼オートメーションシンポジウム 開催に関するご案内

主催: 日本自動制御協会 協賛: 計測自動制御学会,
 日本鉄鋼協会

プラントの大規模化, 複雑化, 人件費高騰等により, 各業界とも生産の合理化, 省力化, 自動化を推進中であり, 鉄鋼業界におきましても旧くから学会, 鉄鋼各社, 制御装置メーカー体となり, コンピュータを中心とするオートメーション化や情報の集中化による高効率運転を実施しており, その内容も複雑多岐に亘っております。

この度, これら三者の交流を更に緊密にし, 関係各位の情報交換と啓蒙を目的としてシンポジウムを企画致しました。つきましては, 下記要領にて論文を募集致したいと思っておりますので, ふるつてご応募下さい。

月 日 昭和52年1月26日(水)・27日(木)

会場 未定 (8月決定)

講演内容 テーマは鉄鋼オートメーション・コンピュータによる集中制御に関するものならば何でも結構です。

ただし, ご講演の可否は当協会プログラム委員会にて, 検討の上決定させていただきます。

講演期間 30分 討論時間 10~15分

前刷原稿締めきり日 11月22日(月)

申込方法 所定の申込用紙に必要事項を記載の上, 下記宛お申し込み下さい。

原稿用紙, 執筆要項をお送り致します。

〒606 京都市左京区山端一丁目1番地

日本自動制御協会

[鉄鋼オートメーションシンポジウム係]

TEL (075) 711-6601・701-8893

シンポジウム当日若干の参加費をいただきます。

第23回腐食防食討論会参加案内

主催: 腐食防食協会 共催: 日本鉄鋼協会, ほかに

日時 昭和51年10月14日~16日(木・金・土)

場所 日本都市センター別館 講堂 (東京都千代田区平河町2-4-1 電話 03-265-8211)

交通 地下鉄有楽町線「麴町駅」「永田町駅」より徒歩約3分, また丸の内線, 銀座線「赤坂見附駅」より徒歩約6分

国電「四谷駅(麴町口)」より徒歩約12分

都バス・京王バス (新橋↔中野哲学堂) 「平河町

2丁目・都市センター前」, 都バス (新宿↔銀座)

「麴町4丁目」下車, 徒歩約3分

参加申込締切 昭和51年9月25日(土) (厳守)

上記期日までに申込みがあり, かつ参加費を受領した方に限り予稿集をお送りいたします。

主題 局部腐食の予測・診断・対策

懇親会

日時 昭和51年10月15日(金) 18:00~20:00

会場 日本都市センター

会費 1人5,000円

懇親会申込書は, 所定の討論会申込用紙を併用のこと。

第3回生産加工技術に関する国際会議の

お知らせおよび講演論文募集

期 日 昭和52年7月14日(木)～16日(土),
見学会 17日(日)
場 所 京都市南区京都市駅八条口前 新都ホテル
(075)-661-7111

プログラム

1) セッション講演(研究発表)(5セッション, 発表
時間は1論文当たり, 討論を含め 30分)

① 生産システムと管理

a. 自動生産システム b. 自動生産システムの経済性
c. ミニコンピュータおよびマイクロコンピュータの生産への応用
d. 自動生産設計

② 工作機械, 精密測定機械

a. 自動化 b. 静的, 動的, 熱的特性 c. 騒音の抑制
d. 新機軸設計 e. 多次元精度, 多次元測定

③ 表面特性

a. 加工変質層 b. 加工残留応力 c. 無歪表面
d. 粒子線加工

④ 切削加工

a. 切削過程の解析 b. 工具寿命と工具摩耗 c. 寸法精度
b. インプロセス計測

⑤ 研削加工

a. 研削機構 b. 研削能率および経済性 c. 研削精度
d. 研削工具および研削盤

2) シンポジウム

① 超精密加工

サブミクロンの精密加工は, 一つの先導技術であるばかりでなく, 今や工業的必要性から生まれたものと言える。この極限技術の現状と将来につき, 材料とその加工およびそれらの物理的測定という見地から議論がなされる。

③ 伝統技術と精密工業

精密工業は長年の習熟により得られる人間の技能に負う所が多い。伝統技術を再認識し, 今後の精密工業の発展の中で人の技能の果すべき役割およびその意義について討論する。

③ 生産技術研究の国際協力(仮題)

アジア地域を含む各国よりの出席者を交え, 生産技術に関する研究の国際協力についてその現状, 問題点, および将来の計画に関し意見と情報を交換するためのシンポジウムを企画中である。

3) 特別講演(未定)

プロシーディング 特別講演, シンポジウム, セッション講演の論文を集め, 会議開催前にプロシーディングを刊行します。

言 語 原則として英語を公用語とします。シンポジウムおよび特別講演には英語・日本語間の同時通訳を準備します。

の同時通訳を準備します。

講演論文の募集

1) セッションで発表する研究論文として, 上のプログラム説明文に挙げた内容に関する論文を募集します。

2) 論文は英語で書かれたものとします。講演発表も原則として英語で行います。

3) 論文は既発表・未発表を問いません。ただしすでに論文として印刷掲載されたものは申込みできません。

4) 申込み締切り: 講演申込み用紙に必要事項を記入し800語以内の英文アブストラクトをコピーを含め2部添えて, 昭和51年9月20日(月)までに学会事務局あてお送り下さい。

5) 論文の採否: 提出されたアブストラクトによつて採否を決定し, 昭和51年10月30日(土)までに通知します。

6) 本論文提出締切り: 昭和52年1月20日(木)

7) 本論文の長さ: 所定の用紙にタイプし, 図表を含めて6ページ以内

8) 本論文の修正: 提出された論文につき修正のアドバイスを行うことがあります。

9) 発表論文は当会議終了後「精密機械」または「Bulletin of The Japan Society of Precision Engineering」へ投稿することができます。この場合あらためて学会規定の校閲を経て可否を決定します。ただし「精密機械」へ投稿される場合は邦文論文に直して投稿することとし, 邦文論文に適用される掲載料3万円が免除されます。

10) 申込先:

精機学会(〒160 東京都新宿区百人町 2-22-17)

セラミックビル内 電話 03-362-4030)

参加申込み

1) プログラムの詳細とともに, 昭和52年4月号に会告ご案内しますので, それにより申込んで下さい。

参加申込み締切り: 昭和52年6月4日(土)です。

2) 参加費 30,000円(プロシーディング1冊分を含む)

懇親会参加費 5,000円

会議第1日(7月14日)夕方開催

第17回高圧討論会開催案内

共催: 日本鉄鋼協会, ほか

来る10月1日(金), 2日(土)の2日間第17回高圧討論会が札幌共済ビル(札幌市中央区北4条西1丁目, Tel. 011-241-2661)で開催されますのでお知らせいたします。プログラム, 他詳細については下記へお問い合わせ下さい。

参加費 3000円

懇親会 10月1日(共済ビル) 3500円

連絡先 060 札幌市北区北13条西8丁目

北海道大学工学部応用化学科 松下 徹
(Tel. 011-711-211, 内線 6571, 6572)